

鬼瓦の輝き再び

金沢別院本堂 屋根ふき替え完了へ

金沢市安江町の真宗大谷派(東本願寺)金沢別院本堂で進められていた屋根のふき替え工事がほぼ完了し、約三万六千枚の銅板が新しくなった。仕上げを前にした「鬼瓦上げ式」が十三日であり、関係者約四十人が祝った。(小坂亮太)



屋根の上につり上げるために、クレーンに取り付けられる鬼瓦の一部。金沢市安江町の金沢別院で

鬼瓦は高さ一・三五呎、幅一・〇八呎の木製で、表面に銅板が貼られている。屋根のふき替えに合わせて修繕された。式の後、施工業者が鬼瓦をクレーンでつ

り上げ、屋根に取り付ける作業を始めた。十四日に完了する。境内にある金沢幼稚園の園児も様子を見守り「頑張れ」と声援を送った。

金沢別院の小林齊輪番(五七)は「大雪や猛暑で大変な中、工事を進めていただき感謝している。百年、二百年と人が集い、仏法がつながっていく場となることを願っている」と話した。

屋根のふき替えは二〇二〇年五月の「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」に向けた記念事業の一環。本堂が一九七一年に再建されたから四十年以上がたち、傷みが目立ってきたため、昨年七月に着工していた。来年一月から工事用の足場を解体し、二月末には新しい外観がお目見えする。内部のバリアフリー化なども含め、六月末に全ての工事が終わる予定。